

平成 19 年度 第 5 回海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

日 時：2008 年 2 月 8 日 (金) 12:00～14:15

場 所：土木学会 EF 会議室

参加者：高橋委員長，関本幹事長，小林委員，矢内，木村，水谷，五明，佐々木の各委員
兼幹事，田島，加藤，武田，鈴木，森屋の各幹事

資料 1 平成 19 年度 第 4 回海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

資料 2-1 特別セッション 開催報告

資料 2-2 H20 特別セッション (案)

資料 2-3 改革小委員会 活動報告

資料 3 委員の選出方法について

議事内容

1. 委員長挨拶

各小委員会活動，シンポジウムに向けての準備，海洋基本計画への対応について，しっかり行っていくことを期待する。

2. 前回議事録の確認

前回議事録について，修正点等あれば幹事長に連絡する。

3. 海洋開発論文集の投稿状況と検討課題

アブストラクト投稿総数 241 編，特別セッション依頼論文 7 編，査読者 88 名にて来週より査読開始する。

発表者の登録が漏れる例が多かったが，それ以外は特に障害もなく，システム的には順調であった。アブストラクトのフォームを変えたが，数編昔のままのフォームでの投稿があった。今回はそのまま受け付けた。英文の投稿も 1 編あった。英文のフォーマットは特になく，2 ページであれば受け付ける。

4. 第 33 回海洋開発シンポジウムの準備状況

(1) 後援について

中国地方整備局港湾空港部の小林技術審査官から挨拶があった。

1 月 10 日に委員長，幹事長，前野委員（岡山大）が中国地整，岡山県，倉敷市に協力をお願いに行くとともに，会場を視察した。また，関連イベントとの調整や倉敷市の HP に載せてもらうなどについても打合せを行った。今後，準備を進めていく。

(2) 特別セッション

大水深域の水産利用については，昨年同様水工研の明田氏をオーガナイザーに，講演依頼 3 編，一般からの投稿 4 編をあわせて，水産庁本庁も参加する形で講演とパネルディスカッションを行う。

海洋エネルギーについては、九大の経塚先生をオーガナイザーとして、波力（委員長）、潮流力（経塚先生）、温度差（佐賀大グループ）、洋上風力（東大・東電グループ）の4テーマで講演者を調整中である。次年度は、土木に関連が深い潮流、波力を軸に関連する分野を巻き込んで議論することを考えている。

海洋エネルギー関連の情報として、前の週に行われる ISOPE で再生可能エネルギーのセッションにアメリカ（オイルメジャーなど）から多くの論文が投稿される。また、NEDO でも波力も拒まず申請の受付を開始する。

(3) 第 34 回シンポジウムについて

委員長と幹事長で横浜市に協力依頼をしてきた。横浜市港湾局が窓口になり、関東地整も支援してくれる。基本的には 2009 年 7 月 1~2 日の開催を軸に調整し、関連するイベントも考慮して計画を立てていく。横浜市で会場を押さえていただくようお願いした。横浜港の開港 150 周年になるので歴史を扱ったご当地セッションなども考えてみる。また、予算的に余裕が出る場合は、①全部ではないが次年度へ持ち越せるので持ち越す、②市民を呼べるようなシンポジウムを企画する、③小委員会活動へまわすなどが考えられる。

5. 小委員会, WG からの報告

(1) 改革小委員会

2009 年の特別セッションは、①海洋エネルギー（2 年目）、②海底資源、③環境指標、④地元テーマなどを考えている。

H19d の特別講演概要はチェック後、HP へアップする。また、特別講演会を年 1 回行い、次回は海洋基本計画をテーマとすることを考えている。

座長企画型セッションは、議論する場を提供しようという趣旨であり、委員による試行を試みている。今回は通常 5 編のセッションを 4 編として、座長が話をする時間を設けてみるということで、座長である委員に検討していただく。また、レビュー論文と一般論文の関係や特別セッションとの違いなども含め、今年を試行を踏まえ改革小委員会として再整理する。論文としては、特別セッションと一般論文の 2 分類を基本とする。

海洋開発委員会の評価は、B 評価である。評価を A にすることが目的ではなく、行っている活動が、将来を見据えて役立つ活動ができているかが重要である。しかし、土木学会から活動のマンネリ化や国際的な活動への貢献が低いなどの指摘を受けているのも事実であり、市民参加の活動や国際的な活動を増やしていくことは大切である。国際的な活動の一環として、2009 年の ISOPE への共催を模索していく。

海洋開発国際賞については、予算を 20 万円確保し、2009 年春の特別講演会で表彰するとともに、講演も行ってもらふこととし、候補者の選定を行っていく。

(2) HP について

英文化の準備中である。論文集の英文名は Annual Journal とし、取り急ぎ英文 HP

を立ち上げ、随時見直していく。

2つめのニュースレターは、北大の佐伯先生に依頼中である。年に2回ぐらいはニュースレターを出したいので、テーマを海洋基本計画関連として、書いていただく方を選んでいく。

議事録の最新版（関本幹事長）および特別講演会の概要（チェック後、木村委員兼幹事）を佐々木委員へ送り、HPにアップしてもらう。

6. 海洋基本計画について

2月4日に原案が公開された。2月25日までパブリックコメントを募集中である。11月に土木学会から海洋開発委員会と海岸工学委員会の連名で海洋担当大臣宛に提言を提出している。原案に対しても意見を述べていきたい。この幹事会の後で予定している委員会でも、海洋基本計画への対応については時間をとって議論したい。

海洋について長期的に考えるよい機会を与えられたと考え、これからも委員会として対応を考えていく。海洋基本計画は5年毎に見直されていくことになる。5年後にはもっとしっかりした対応をとるために、海洋基本計画に対応する小委員会を立ち上げる。

7. 委員の選出について

委員は兼幹事も含め現在38人、旅費は支給している。任期は2年である。6月に委員長改選とともに委員の任期が切れるため、今後の海洋開発委員会の活動のために有用な人に入ってもらう。内規に書かれている職域指定などを見直していく。

幹事長が内規の素案を作り、次回の幹事会で議論する。

委員は土木学会の会員となっていることが望ましい。

8. 今後のスケジュール

2月28日 幹事会（アブストラクトの査読結果審議など）

4月24日 幹事会（2次査読結果審議、次期委員名簿案など）

5月 委員会（委員の任命）

6月 改選

7月1～2日 シンポジウム、総会